

酪農を通じて安らぎの場を提供 ～都市住民に開かれた牧場を目指して～

瀬戸市 木下^{たけほ} 健保さん（牧場みずの坂 west hill）
畜産（酪農）

【平成25年6月20日掲載】

瀬戸市の新興住宅地で酪農を経営するかたわら、牧場を一般に開放して、地域住民に安らぎや学習の場を提供する木下健保さんを紹介します。平成元年に牧場周辺の宅地開発が決定されて以来、木下さんは、この地で酪農を続けるために都市における酪農経営のあるべき姿を模索してきました。その結果、都市と共存する新たな酪農経営スタイルが評価され、平成24年に第8回日本農業賞・特別部門「食の架け橋賞」を受賞されました。

理想の酪農経営

「牧場みずの坂 west hill」の前身である木下牧場は、昭和36年に木下さんの父親によって始められました。5頭からスタートでしたが、昭和39年に木下さんが就農してからは徐々に飼養頭数を増やし、昭和50年頃には50頭ほどの乳牛を抱える牧場となりました。当時は多くの酪農経営が規模を拡大することによって生き残ろうとしていた時代でした。しかし、木下さんは、「(かつての日本では当たり前であった) 人間と家畜が共存している風景への憧れがあった。」と、無理なく牛を管理できる規模での経営を続けていくことを考えていたそうです。



乳質が濃厚なジャージー牛と木下健保さん

経営の転換点

一方、瀬戸市は名古屋市のベッドタウンとして急激に発展を続け、平成元年に木下牧場のあった地域でも住宅・都市整備公団（以下、公団）の住宅開発事業計画が決定されました。このままこの地で酪農を続ければ家畜の糞尿が臭いやハエ等の発生源となり、周辺住民との摩擦がおきることが考えられます。そのため、木下さんは周囲から地域外への移転を勧められました。

しかし、郊外に移ったとしても酪農経営が抱える環境問題の根本的な解決にはならないため、いっそのことこの状況をチャンスに変えようと考え、この地に残って経営を続ける決心をしました。その後、協議を重ねるうちに、周囲も「都市の一部として共存できる牧場」を経営したいという木下さんの想いを理解し、計画区域内での移転に合意しました。事業計画が持ち上がってから8年後のことでした。

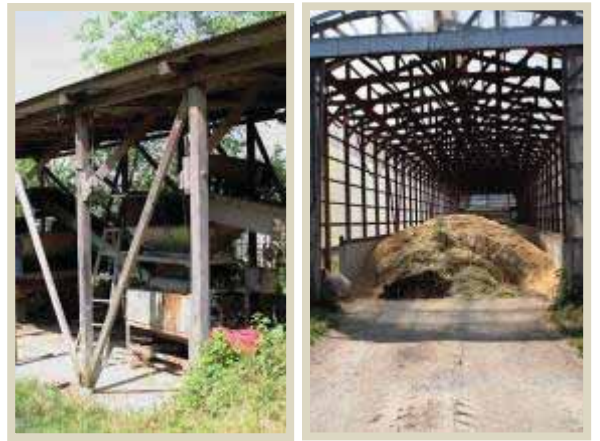


住宅地に隣接する放牧地

徹底した臭気対策

街に残るからには環境対策が生命線になると考えた木下さんは、畜舎の建設に際して先進農家の視察を重ねました。特に堆肥化施設については、悪臭問題に直結するため、風向きや設置場所に気がついたそうです。糞については固液分離装置で水分含量を減らし、処理施設の小型化を図りました。また、汚水処理については公団と協議した結果、下水道を利用することになりました。このような取組の結果、悪臭やハエ等による地域住民からの苦情はありません。

2か月以上かけ、十分に発酵した良質な堆肥は、地域住民からも人気で花壇や家庭菜園の植え付け時期となる4月には、供給が追いつかないこともあるそうです。



固液分離装置（左）と
ロータリー式攪拌機を備えた発酵槽（右）

開かれた牧場を目指して

牧場には、現在の酪農経営では必ずしも必要ではない放牧地があります。これは、木下さんが理想としている「人間と家畜が共存する風景」を、近隣住民にも身近なものとして感じてほしいという思いからつくられました。畜舎についても、覗いた人が牛たちの表情や餌を食べる姿を見られるように、“尻あわせ”ではなく、あえてコストのかかる“頭あわせ”を採用しています。こうした工夫によって、今では保育園児やデイケア施設の老人たちの散歩コースとなっており、地域の人たちに安らぎを与えています。



“頭あわせ”の牛舎

木下さんはこれらハード面だけでなく、ソフト面でも地域に酪農の持つ安らぎと豊かさを提供しています。平成13年には酪農教育ファームの認証を受けて、近隣の小学校から酪農体験学習に、年間1,000人近くの児童が牧場を訪れています。さらに、地域のイベントでは、子牛やヤギとふれあえる移動動物園も行っており、酪農や農業に対する理解の促進をはかっています。



放牧地ではヤギやポニー
が出迎えてくれる。

こうした活動に割く時間は決して少なくないそうですが、観光牧場として利益をあげることは考えておらず、「酪農自体が自分のバックボーン」と本人が語るように、あくまで生産現場としての「開かれた牧場」を経営していくそうです。

「ここで搾った牛乳を飲みたい！」とってくれる人もいるので、将来的には自家製の乳製品を提供できるようなカフェを開くのが夢だそうです。最後に「郊外へ移転したからといってすべてがうまくいくわけではない。今後、宅地開発があっても、逃げずに向き合ってほしい。」と都市で酪農に携わる若手生産者にエールを送ってくれました。

執筆：農業経営課
取材協力：尾張農林水産事務所農業改良普及課